

新婦人 しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース／国会
- 3面 読者のページ／まんが／詩／俳句
- 4面 婦人保護／あの頃／LGBT／法律相談
- 5面 憲法講座／ホットライン
- 6面 なぜ新電力が高騰？／もう一品／母の歴史
- 7面 新婦人のページ／主張／女性の体の変化



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

心と体をリフレッシュ 身近な 自然を楽しむ



日に日に緑が増すなか、散歩しながら草木を楽しみませんか。長野県自然観察インストラクターの柴平志保子さんに、

いま公園や道端で見られる草木を紹介してもらいました。

ハリエンジュ

(別名ニセアカシア、マメ科、落葉高木)



タチツボスミレ

(スミレ科)



ヤマボウシ

(ミズキ科、落葉高木)



ハナミズキと花や葉のつき方が似ている。花びらのように見えるのはガクで、最初の緑色から白色に変わる。ガクの真ん中に淡黄緑色をした花が20〜30個、密集してつき、果実は秋に赤く熟す。

カラスノエンドウ

(マメ科)



果実が熟すと真っ黒な鞘になることから「カラス」の名がついた。少し小型でよく似ているスズメノエンドウは白い花がつく。

ムラサキサギゴケ

(ゴマノハグサ科)



高さ10センチ前後で、花冠の先が唇状に切れ込んだ形をしている。

カキドウシ

(シソ科)



心がなごむ草花



長野県自然観察インストラクター 柴平志保子

柴平志保子

早春に「もう咲いてたヨ」と話題になるのが「スミレ」です。冬を除いて1年中、花を咲かせています。交配して中間種がたくさんできていて、地域や生えている場所によっていろんなスミレが見られます。一番よく見かけるのが、うす紫色の「タチツボスミレ」(写真上中)ですね。茎は成長すると立ち上がり、名前の「ツボ」とは道端や庭のことです。花が終わったあとには、つぼみのような形をしたものが現れ、そのなかで自分で受粉して実をつけます。

ですが、蜂蜜業者の反対で中止になったことがあります。

シソ科の「カキドウシ」(写真右下)は、葉をもむと強い香りがします。開花後の茎は長く伸び、繁殖力があり、地面を這う。名前は茎が垣根を通し侵入してくることからきています。漢方薬として使われています。

11日、小諸市で氷風穴

周辺の草木の植物観察会の講師をしました。予想を超える参加があり、コロナ禍で、外で楽しめる企画がとても喜ばれました。

草花を見ていると心が和みますね。好きなことで体を動かすのはいいですよ。川原や少し足をのばして近くの山に出かけると、名前を知らない草木に出会えます。写真撮って、植物図鑑や植物を同定できるスマホアプリで調べてみてください。

「ハリエンジュ」(写真左上)はいたるところに野生していて、花はアカシア蜂蜜の重要な蜜源になっています。繁殖力が強いので、地域で材探しようという話があった

草木染小組



桜や梅の古木に生えるコケを材料に染めました。ヨモギやたんぽぽ、青柿など身近なものですてきな風合いに。今年は、染めた和紙で千羽鶴を折り原爆展で展示します。(和歌山・海草支部きみの班)

5月8日号は休刊です

